

【事例紹介】

ニューカレドニア留学の魅力

－ “日本に一番近いフランス” での異文化体験－

Invitation to French Language Study in New Caledonia:
Unique Cultural Experience in the Closest French Territory to Japan

ニューカレドニア観光局日本支局長 小早川薫

KOBAYAKAWA Carol

(Director, Japan New Caledonia Tourism Office)

キーワード：ニューカレドニア、フランス語留学、異文化体験、CECR、フランス語試験、海外留学

ニューカレドニアは“日本に一番近いフランス”

フランス領ニューカレドニアは、オーストラリアの東、ニュージーランドの北に位置する南太平洋の島国です。本島であるグランドテール島を中心に、ロワイヨテ諸島やイル・デ・パンといった多数の美しい島々によって構成されています。この島が、日本で“天国に一番近い島”として知られるようになったのは、1960年代に作家・森村桂の旅行記『天国にいちばん近い島』が当時のベストセラーとなったことから。この作品はその後、映画化もされ大ヒットを遂げました。現在も青く輝く海と白砂のビーチが美しい高級リゾート地として、本国フランスはもちろん、オーストラリア、ニュージーランド、日本などから数多くの観光客が訪れるデスティネーションとなっています。

歴史的には1853年、ナポレオン三世によってフランス領となった後、1946年には植民地としての地位を脱してフランスの海外領土として認められました。さらに1999年以降は、フランス共和国の一部でありながらも、特定地域にて自治権を有する「特別共同体」という位置づけを獲得しています。

そんなニューカレドニアは、日本（成田・関空）からは直行便で約8時間半と近く、“日本に一番近いフランス”でもあります。時差もわずか2時間で、移動による体の負担が少ないデ



ステーション。また、年間の平均気温は約 24 度で際立った雨季もないことから、“常春の国”とも呼ばれています。日本の夏には避暑地、日本の冬には避寒地としてうってつけで、観光にはもちろんフランス語留学においても、時期を選ばずに訪れていただける場所です。

親日で治安がよく、長期の滞在にも安心

ニューカレドニアには、明治～大正時代に約 5500 人もの日本人がニッケル産業従事者として移住してきた歴史があります。勤勉な日本人はニューカレドニアの人々からも温かく迎えられ、その多くは鉱山労働者としての契約期間を過ぎてもニューカレドニアに残り、現地で家族を作りました。

その後、ニューカレドニアに移り住んだ日本人は、第二次世界大戦によって敵国国民とみなされ日本に強制送還となったため、現地の家族とは離れ離れになってしまうという悲しい出来事も起こりましたが、実は現在も「タナカ」「ワタナベ」といった日本人姓を持つ日系二世・三世が数多く暮らしています。そのため、人々は非常に親日。街なかの案内板には日本語表記も少なくなく、ヌメアのたいていのレストランでは日本語メニューが用意されているなど、フランス語圏でありながら日本人にとっては、とても馴染みやすい雰囲気です。

ニッケル産業を中心に経済的にも安定している島で、さらにはテロの心配もないため治安がよく、女性やシニアの方々など、どなたでも安心して滞在していただける環境となっています。

フランス×メラネシアの異文化に触れる

グランドテール島南部西海岸に位置する首都ヌメアは、南仏の港町を思わせる雰囲気にもあふれた南太平洋最大級の都市です。街を歩けばコロニアル様式の建築物や壮麗な大聖堂などが点在し、フランス領ならではの洗練された趣を感じられます。また、利便性・衛生面のいずれをとっても、留学での滞在にふさわしいインフラが整っています。万が一の際の医療体制も、ヌメアでは本国フランスと同等水準の治療が受けられるので安心です。

ホテルにはキッチン付きの客室も多く、ホテル滞在での留学では、朝市や近くのブーランジュリー（パン屋）で新鮮な食材やおいしいバゲットなどを購入し、ホテルの部屋で料理して食べるといった風に“暮らすように滞在する”体験を楽しんでいただけます。



ここは美食の街でもあり、一流のフレンチ・キュージーヌからカジュアル・レストラン、おしゃれなカフェ、さらにはエスニック、和食まで多彩な選択肢が揃っているのも大きな特徴です。加えて特産の食材には、本国フランスで高級食材として知られているものも少なくありません。アミノ酸含有率が高く甘み・旨味がぎゅっと詰まったような「天使のエビ」、一つ一つ丁寧に花を受粉させて作られるバニラビーンズ、天然オーガニック100%の生はちみつなどは、ニューカレドニアを訪れたなら必ず味わっていただきたいものです。新鮮な果物や野菜、鹿肉・鴨肉などの肉類も豊富で、留学による長期滞在でも食事に不自由することはありません。



一方、ニューカレドニアにはカナックと呼ばれるメラネシア系先住民たちの伝統文化が、今なお息づいています。「ニューカレドニア博物館」や「チバウ文化センター」といった文化施設でその歴史を学んだり、離島や東海岸などの伝統文化を守り続けている村々まで足を延ばして、その暮らしぶりに触れたりしてみるのも、きっと素晴らしい体験になるでしょう。

世界遺産のラグーンをはじめとする珠玉の自然体験も

また、ニューカレドニアへの留学が本国フランスと大きく異なる魅力といえば、その希少な大自然を舞台とした数々の体験にあるでしょう。ニューカレドニアの周辺を取り囲むラグーンは、バリアリーフの全長1,600km、面積としては世界最大の2万3,400km²を誇り、2008年に、そのうちの6海域がユネスコ世界自然遺産に登録されました。

このラグーンには約1万5000種もの多種多様な海洋生物が生息しており、例えば絶滅危惧種であるウミガメ生息数は世界第2位、ジュゴン生息数は世界第3位となっています。シュノーケリングやSUP（スタンド・アップ・パドル）、グラスボトムボートなどの気軽なマリニアクティビティで美しいラグーンの魅力を経験していただくことができます。

レッスンが終わった午後には、カナル島やラレニエ島などヌメア近辺の小さな無人島へ出かけ、静かなビーチでのんびり過ごすのも素敵です。さらに休日には、“海の宝石箱”と呼ばれるイル・デ・パン、映画『天国にいちばん近い島』のロケ地にもなったウベア島などの離島へも足を延ばしてみたいはいかがでしょうか？ 本島とはまたひと



味違ったラグーンの美しさや、のどかで穏やかな時間の流れが心を癒してくれるはずです。

そして、希少で美しい自然環境は海に限ったことではありません。約8,500万年に現在のオーストラリア大陸である Gondwana 大陸から分離し、原始の姿を残したまま独自の生態系を育てているこの島は、3,000種以上にものぼる固有動植物を有しています。特にニューカレドニアのシンボルでもある飛べない鳥・カグーは、ひょっこりと森から姿を現して歩きまわる姿が愛らしく、一度はご覧いただきたい固有種です。

グランドテール島南部の「リビエール・ブルー州立公園」や西海岸中央部の「巨大シダの森公園」といった自然保護区でこうした動植物との出会いを楽しめます。手付かずの自然が残る絶景の中を、ハイキングやトレッキング、マウンテンバイク、カヌー&カヤック、乗馬などの多彩なアクティビティーで探訪するのもおすすめです。



国際基準に沿ったクオリティーの高い教育体制

ニューカレドニアへのフランス語留学となると、気になるのが現地で使われるフランス語の質ですが、ヌメアで使われるフランス語は発音も本国フランスとほとんど変わりありません。また、パリのような都会と比較すると、人々の会話のスピードがゆっくりであることから日本人には聞き取りやすく、フランス語入門者であっても安心して留学していただける場所となっています。

また、ニューカレドニアには各国から年間約1,000人の学生・社会人が語学留学に訪れています。その約8割はオーストラリアやニュージーランドの人々であり、こうした英語圏の留学生との交流を通じてフランス語だけでなく英語にも触れる機会が増えるため、幅広い国際感覚を身につけていただくことができます。

現在、日本からの留学生を受け入れている語学学校は下記2箇所です。いずれも CECR (Cadre Européen Commun de Référence /ヨーロッパ言語共通参照枠) に準じた最新教材を



用いており、本国フランスと変わらないクオリティーの高い教育体制が整っています。プチ留学から長期の語学留学まで、一人一人のニーズに合わせたプログラムが用意されていますので、本格的なフランス語留学を目指している方々はもちろん、“暮らすような旅”に憧れている女性やシニアの方々も気軽な留学体験をお楽しみください。

滞在のスタイルも、ホテルステイとホームステイからお選びいただくことができます。ホームステイでは、ホストファミリーとなるニューカレドニアの人々のおおらかで温かい人柄に触れ、心安らく時間を過ごしていただけるでしょう。

「クレパック (GREIPAC)」

ニューカレドニア政府によって運営されている公立の語学学校で、フランス国民教育省が行なっている各種フランス語試験 (DELF / DALF / TCF : フランス国籍取得のために必須) の公式会場にも指定されています。ヌメア中心部から少しはずれたヌービル地区に位置し、ニューカレドニア大学にも隣接。閑静で整った環境の中、学びに集中していただけます。歴史的にも価値のあるコロニア風建築をリノベーションした校舎も魅力的です。

高校生・大学生だけでなく社会人留学の受け入れも行なっており、レッスンは初心者～上級者 (A1～C2 レベル) まで用意されているので、一人一人の能力に合ったクラスを受講することが可能です。DELF や DALF の試験対策コースも用意されていますので、資格取得をされたい学生・社会人の方々や企業の語学研修などにもご活用いただけます。

また教師陣は、FLE (外国語としてのフランス語教授法) ・FOS (専門目的のためのフランス語) や最新の指導法についての訓練を受けています。

レッスンは平日午前中に行われ、午後は曜日により、オプションで下記のようなアクティビティーが用意されています。また、土日にも参加可能な離島ツアーがあります。

<毎日開催可能>

- ・ポンツーン 訪問 (シュノーケリングが楽しめる浮島)

<火曜>

- ・ヨガセッション
- ・チバウ文化センター訪問

(ニューカレドニアのメラネシア系先住民族・カナックたちの伝統文化について学べる文化施設)

<木曜>

- ・ニューカレドニア・ラグーン水族館訪問 (ニューカレドニアの海を再現展示。希少な海洋生物を実際に見て、楽しみながら知識を深められる施設)

・ ミシェル・コルバソン動植物森林公園訪問（飛べない鳥カグーをはじめ、ニューカレドニアの固有種に出会える公園）

<土曜または日曜>

・ アメデ島ツアー（ナポレオン三世の命によって建造された白亜の灯台からの眺めが絶景。シュノーケリングやグラスボトムボートなどで1日中楽しめる）

<その他予約制のもの>

・ チョコレート専門店「ショコラ・モラン」訪問 など

※上記は2019年4月現在の情報です。変更になる可能性もございますのでご了承ください。

個人での留学の場合は、クレパックの講習スケジュールに合わせてレッスンを受けていただくこととなりますが、学校などグループ単位での利用の場合は、1日単位から修学旅行向けプログラムをカスタマイズすることも可能になっています。語学レッスンに加えて、教師同行による博物館・水族館見学などのアクティビティーやニューカレドニア大学学生との交流会などのイベントを合わせて体験すれば、より深い異文化体験・国際交流の機会となるに違いありません。

詳細は下記 URL からご覧ください。

<公式サイト>

<http://www.creipac.nc/>

<Facebook ページ>

<https://www.facebook.com/CREIPAC.nc/>

<問い合わせ E メール>

creipac@creipac.nc

「ヴォルテール学院 (L'Institut Voltaire)」

ヌメア中心部であるココティエ広場からすぐのロケーションにあるため、通学や観光にも非常に便利です。プライベートレッスンからグループレッスンまでさまざまなニーズに対応しており、アットホームな雰囲気が評判の語学学校です。レッスンは座学だけでなく、街なかに出て地元の人々とフランス語でコミュニケーションをとるなど実践的なスタイルで行われるものもあり、楽しく学んでいただける工夫がされています。

<問い合わせ E メール>

institutvoltaire@nautile.nc

留学情報・お問い合わせについて

語学学校やレッスンの詳細については、各学校に直接、お問い合わせください。また、ニューカレドニアに日本人が渡航する場合、パスポートの有効残存期間は滞在日数に加えて3ヵ月以上が必要となりますが、滞在期間が90日間以内であればビザは不要です。それ以上の滞在期間で留学される場合は、日本にあるフランス大使館まで学生ビザを申請してください。ビザ申請時には学校側への入学申請を済ませ、仮入学許可証を取得しておく必要がありますので、ご注意ください。

さらに学校で教育旅行をお考えの場合は、ニューカレドニア観光局でも参考資料をご用意しておりますので、ぜひご一読ください。

<ニューカレドニア教育旅行ガイド PDF>

https://www.newcaledonia.travel/sites/default/files/2018-12/Educational_travel_guide_0.pdf